

つながりを大切に 地域の居場所づくり

「つなしょ」の活動

名古屋市中で活動する「小幡緑地冒険遊び場の会」は、2013年「自分の子どもが幸せに育つには、まわりの子どもも幸せでなければならぬ」と考えた地域の大人たちが集まり、立ち上げた団体です。2023年、10年目を節目に法人化し、「一般社団法人つながり探究所」を設立しました。

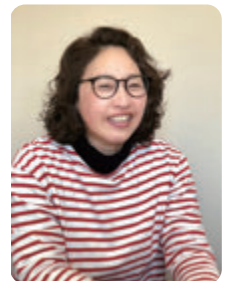
メインとなる活動は、屋内・屋外の居場所づくりです。子どもだけでなく、さまざまな人が「第三の居場所」として自由に過ごせるような場を提供しています。

私たちは屋内の居場所を「つなしょ」と呼んでいます。つなしょは「人と人がつながる場所↓つながるばしょ↓つなしょ」ということから名付けました。「つなしょ」では駄菓子屋を常設し、子ども食堂を開きます。また、食べることに困った人に無償で食品を配布するフードパントリーで、生活困窮者や外国人の支援も行っています。

会の運営を担うスタッフは、地域で暮らす大人たちです。でも、会の中心となるのはやはり子どもたちです。運営にあたっては、遊びに来る子どもたちの声を聞き、方針を決めています。事業内容は、これまでの活動で出会った人たちの声や、スタッフの意見、アイデアからつくられています。スタッフ一人ひとりが自分の長所や経験を活かして、活動としてできることを探しています。

私自身、長年介護福祉に携わってきたことから、地域福祉や高齢化社会について知識があったので、自分が子育てをする中で感じた孤独や悩みを、高齢者福祉と併せて考えた結果、「つなしょ」を開設しました。

「つなしょ」の一日は、午前中には団地の方や食品の支援を求めている方、のんびりだれかと話したい方などがやって来て、色々な方の拠り所となっています。放課後の時間になると、子どもたちが遊びにやってきました。駄菓子を買ったり、おもちゃで遊んだりと自由な居場所をつくっています。フードパントリー「食べ物おすそ分けの



一般社団法人つながり探究所
代表
中村 真由子

○.....○
[なかむら・まゆこ] 1975年、愛知県生まれ。三児の母。介護福祉士として福祉の現場で感じた気づきから、地域福祉に取り組んでいる。

会」では、棚に食品を並べておき、それを会員がトートバッグに入れて持ち帰る仕組みをつくっています。食品はフードバンク（消費期限が近い食品等を集めて配給する団体）や中間支援組織（市民と行政や企業等の間に入り中立の立場で支援する組織）、行政からの支援を受けて集めています。

「つなしょ」に来る人の中には、緊急で食品の支援を必要とするほど生活に困っている方もいます。その場合には、相談を受けつつ必要な物をお渡しした後、区の福祉課や必要な機関へとつなげています。

立ち上げたきっかけ

私たちが「小幡緑地冒険遊び場の会」を設立したのは、子どもたちが放課後に遊びに行けるような環境がなかったことがきっかけでした。地域にある公園は、遊具が次々と取り壊され、樹木がどんどん成長して薄暗くなっていました。そこで「子どもたちが放課後、遊べる場」に選択肢があってもいい



室内が見えて入りやすい



子どもに人気の駄菓子屋



子ども食堂のメニュー



食でつながる



子ども同士でつながる

「つなしょ」では、子ども若者相談支援センターからの依頼で、6年間引きこもりだった若者を、店番のボランティアとして受け入れたこともあります。引きこもっていた本人と向き合い、時にはぶつかりながらつながりをつくっていききました。その後、「もう一度高校へ行く」と言って進学した姿はとてもたのしく、心の底から「やってよかった！」と思えました。

コロナ禍の影響で、友だちと放課後に遊ぶ

●●●●●
活動を通じて感じる
やりのいい

私たちが活動の中でやりがいを感じるの、小さい頃から遊びに来ている子どもの成長を感じた時です。しばらく来ないと思っていれば、思春期で恥ずかしそうにひよっこり遊んで来てくれたり、進路が決まって報告に来てくれた時には胸が熱くなります。

「つなしょ」では、子ども若者相談支援センターからの依頼で、6年間引きこもりだった若者を、店番のボランティアとして受け入れたこともあります。引きこもっていた本人と向き合い、時にはぶつかりながらつながりをつくっていききました。その後、「もう一度高校へ行く」と言って進学した姿はとてもたのしく、心の底から「やってよかった！」と思えました。

子どもが少なくまりました。行き場を失くして、閉じこもってしまう子どももいます。私としては、そんな子どもたちと向き合っていたいのに、大人たちへの支援を求める声のほうが大きく、大人たちに時間を取られてしまうことも増えました。そんな時には、どこかむなしさを感じることもあります。私たちがやりたいと思っていたことにどんどん近づいてはいるのですが、立ち向かわなくてはならない壁も多く、達成できないことだらけです。

●●●●●
活動しやすい環境づくり

「つなしょ」に来るようになって間もない人は、自分から話し出しにくいものです。そんな人には、スタッフのほうから笑顔で声をかけます。時には、率直に「最近、大丈夫？」と声をかけることもあります。

それでも、スタッフが心無い言葉を言われる場面もあります。そのため、必ず中心となるスタッフが情報を共有して、一人ですトレスを抱え込む環境をつくらないようにしています。

陰ながらスタッフを支えているのは、家族であり子どもたちです。子育て中、介護中の方でも気楽にお手伝いしていただけるような環境や発言をするように心がけています。ボランティア希望で来られた方には、その方の長所や特技を聞き、どの活動がマッチするのか、スタッフとよく話し合っ



公園内で開催した
プレーパークで
遊ぶ子どもたち



います。そのため、これまで会員として参加していた方が、スタッフとなりお手伝いしてくださる事例も多くあります。

●●●●●
食を通じて相談支援

一般社団法人つながり探究所の名前は、「人と人とのつながりを探究していく」という思いが込められています。私たちの活動は、他の機関と連携しなくてはできない活動ばかりです。行政の窓口が「してあげたいけど、できない…」ということこそが、多くの人が求める社会福祉のニーズだと思います。

私たちは、食でつながり支援することが強みでもあるため、食を通して相談支援を行い、社会インフラの一つとなるように取り組んでいきたいです。そして、自分の子どもが幸せに育つ、「私の暮らしが町って、いいところあるじゃん！」って感じてもらえるような、つながりを大切にしたい場所をこれからもつくっていききたいです。